



# 共同通信



2009年5月16日 153(363号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22  
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email: koudou@gamma.ocn.ne.jp  
<http://koudou.jp/> 振替01170-3-4901  
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、  
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、  
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、  
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、  
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

## To tell the story 53 『おひさしぶりです』

みなさんお久しぶりです。つい先日まで公同の皆さんに大変お世話になりました、広志というものです。3月に私の送別会を皆さんに開いて頂きありがとうございました。とても嬉しかったです。そしてあの送別会の晩はとても楽しかったです。当時高校3年生だった青年達もたくさん集まってくれて大盛り上がりでしたね。彼らが大学生活を元気に過ごしているかとても気にしています。高知の大学に行ったデカちゃん元気してるかい!? 将来保育士を目指すと言っていた男子2人は共同幼稚園のお手伝いに行ってるかい!? 彼らとの素晴らしい出会いをもたらしてくれたのが公同でした。彼らとの出会

いだけではありません。幼稚園の子どもたちや教会学校の子どもたち、またのびーるの会に属する大人達、公同のスタッフ達、その他もたくさんの人達とキャンプや祭りや登山や勉強や、たくさんの楽しいイベントを通してほんとに多くの出会いを私に与えてくれました。このような場所を与えてくれた公同に、そして公同に導いてくれた私の母にとっても感謝したいです。私も公同の一員として、この場をかりて4月からの生活を報告させて頂きたいと思います。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、私は前田広志改め山本広志になりました。私と私のパートナー、麻友美、麻友美と私は中学校の同級

生でその頃から付き合っていたのですが、私達は子供を授かり（6月が予定です。あかりちゃんと同じ女の子ですよ。順子先生！また御披露目に行きます！）2月に結婚しました。そして現在新婚生活を東京都内の狛江というところで過ごしています。狛江は神奈川県と東京都の県境にある、多摩川沿いにある市です。因みに多摩川でこの間私のお嫁ちゃんと釣りをしましたがタマちゃんは見当たりませんでした。魚も釣れませんでした。でも住むには良い所です。多摩川周辺に遊びに来る予定のある方は是非私のお家にお立ち寄りを。

ところで、なぜ私が狛江に住んでいるのかというと、人より長い間学生でいまして、共同の皆さんにお世話になりっぱなしだった私もとうとう社会人として働くことになったからです！毎朝早起きして頑張ってます！ここから私の仕事の紹介を少しさせていただきます。私は毎朝ギュウギュウ詰めの電車で約1時間ゆられて通勤しています。（株）関東産業という関東地方（詳しくは横浜市鶴見区）にある会社でレンタル業の営業マンをしています。まだ入社したばかりなので営業マンを目指してる段階ですが、みなさん勿論聞いたことのない会社だと思います。しかし、とってもみなさんの役に立っている商品に携わっているのです。

2 例えば、みなさんが着ている服に含

まれる化学繊維、車に乗る方はガソリンを買わなくてはなりませんよね。その車が走るアスファルト。また、園長は556か551か名前をはっきり知りませんが、潤滑油をよく使いますよね。これらの商品は全て元は原油です。そしてその原油を溜めておくタンクや、精製したり化学繊維にするのに必要である大きな機械、また原油をタンクから機械に移動させるパイプラインというものがあります。これらのタンクや機械やパイプラインが壊れないようにする日々のメンテナンス工事をお手伝いするのが私の仕事です。工事をする人達に色々な工事道具を貸してあげる（レンタルする）わけです。レンタルする商品は発電機や溶接機や直径10センチ以上もあるボルトを締めるための電動工具だったりします。その商品の数は200点以上！今のところ私はこの商品達を覚えるのに苦しんでいる毎日であります。なんとなく私の仕事内容をお分かり頂けたでしょうか？わかりにくかった人達のために簡単に説明致しますと、“私の仕事は京浜工業地帯にある石油タンクや石油精製機械などをメンテナンスしている工事会社に物貸しをしています”

こんな簡単に説明できるはずだったのですが、大平さんに約2000文字の文章にして欲しいと言われたので、長々と説明してしまいました。ところで大平さん元気かい！？以上が私

の仕事の紹介です。まだ社会人として仕事を始めて1ヶ月余りの未熟者ですが、アフター5もバリバリで頑張りたいと思います！皆様お見守りを宜しくお願いします。このように4月から私が立っている環境がとても変わってしまいました。住居、仕事、結婚、そして6月には父親になります。不安もありますが、希望の方がはるかに上回る毎日であります。

最後に、私は4人兄弟なのですが、長女から末っ子の私まで約30年にまたがって前田兄弟は共同幼稚園の菅澤夫妻にお世話になってきました。

そして今年4月から私の甥がぼっぼに入園しました。菅澤先生、どうか私の甥を宜しくお願いします。おそらく前田一族では最後になると思いますので。菅澤夫妻の健康を願っています。

そして最後の最後にある人にエールを。山地大へ。山ちゃんの毎日頑張ってる姿が目には浮かびます。明日も頑張ってください！園長と翼の言うことをよく聞くように！ファイト山ちゃん！！

共同通信のトップを書かせて頂き、とても光栄でした。

(山本 広志)

生き私か言いたのは重要なのは単にやりとりする愛が  
多  
い  
か  
少  
な  
か  
と  
ら  
よ  
り  
も  
「愛することの苦しみの中で人を好  
き  
な  
愛  
す  
と  
ら  
こ  
と  
は  
ら  
こ  
と  
か  
を  
感  
じ  
つ  
て  
K  
繼  
続  
的  
の  
は  
な  
か  
と  
ら  
こ  
と  
で  
す  
。それこそが将来の生活と人生を生きてゆく  
基本のところでは不可欠ではないのかとらことです。

(「幼児期」岡本夏木)

マタイによる福音書 11 章 28 節で、  
「・・・これらの事を知恵のある者や  
賢い者に隠して、幼な子にあらわし  
ていただきました」という場合の“知  
恵”や賢さについて、イエスがそれ  
らのことを軽視しているという訳で  
はありません。19 節でも知恵につ  
いて言及されていて、「・・・また人  
の子がきて、食べたり飲んだりして  
いると、見よ、あれは食をむさぼる者、  
大酒を飲む者、また取税人、罪人の  
仲間だ、という。しかし、知恵の正  
しいことは、その働きが証明する」と  
書かれています。知恵は、どう使わ  
れるかによって、無いに等しくなっ  
たりもします。「・・・ヨハネがきて、  
食べることも、飲むこともしないと、  
あれは悪霊につかれている」としか  
言えないとすれば、そうして上っ面  
だけの知恵は無いに等しいのです。  
「人の子がきて、食べたり飲んだり  
している・・・大酒を飲む者、また  
取税人、罪人の仲間だ」としか言え  
ないとしたら、その程度にしか働か

せる知恵もまた無いに等しいのです。  
と、遠慮なく言ってしまおうイエスで  
す。11 章 5、6 節で、獄中のヨハネか  
らの使いに、あなたは誰ですかと問  
われ、「・・・盲人は見え、足なえは  
歩き、らい病人は生きかえり、貧し  
い人々は福音を聞かされている。わ  
たしにつまずかない者は、さいわい  
である」と返事をします。“あなたは  
誰か？”と聞かれ、直戴に“わたし  
はこれこれしかじかの者です”と答  
えるのではなく、そこで起こってい  
ることをもとに、思いをめぐらせ判  
断を下すのが、知恵であり賢さです。  
思いをめぐらせ判断したことが、ど  
うでもよいことではなく、その人を  
根底からゆさぶる何かである時、人  
はそこで立ち止まるよりなくなること  
があります。知ってしまうことで  
人はつまづくということは、あり得  
るのです。18 ~ 19 節のように、単純  
にそうであることが、知恵・賢さの  
故にそのまま理解されなくなること  
もあります。そんな、知恵・賢さに

辟易して“知恵の正しさ”などと言及することになったのかもしれませんが。

他方、イエスがヨハネのことを語るにあたって、「・・・何を見に荒野に出てきたのか。風に揺らく葦であるか。では、何を見に出てきたのか。柔らかい着物をまとった人か。柔らかい着物をまとった人々なら、王の家にいる」(7、8節)などと言ってしまふ時、そんな知恵・賢さで勝負してしまう時に起こることを、全く考慮していない訳ではありません。あやうさを承知で“深くえぐり出す”ことこそが知恵、賢さのあるべき姿である、ということにおいては一步もゆずりません。だからこそ、「知恵の正しいことは、その働きが証明する」と言い切れるのです。

知恵があって賢いと自認する人たちの、それ故の愚かさを批判してやまないということは、それ故の“危険”も伴います。しかし、この人(イエス)はなかなか巧みであるのです。そうして、知恵・賢さを問うてやまない自分を、子どもになぞらえます。たぶん、そうなのです。子どもっぽさを装って、無難に生きるということもしません。

“知恵の正しいことは、その働きが証明する”などと言っておいて、そのことを示す為に使われるのが“子ども”だったりします。手段としてではなく、生きてきた生活世界が、自

然に子どもとなって出てきているように思えます。「今の時代を何に比べようか。それは子どもたちが広場にすわって、ほかの子どもたちに呼びかけ『わたしたちが笛を吹いたのに、あなたたちは踊ってくれなかった。弔いの歌を歌ったのに、胸を打ってくれなかった』というのに似ている」の“似ている”は、子どもである必然性はどこにもありませんが、けれどもイエスは“子ども”によって呼びかけさせます。という“手法”を選んでいるのだと思います。さりげなく子どもなのですが、問われる側にとっては、十分に辛辣な問いではあるのです。「これらのことを知恵のある者や賢い者に隠して、幼な子にあらわしてくださいました」も、あらわした相手が、取るに足らない“幼な子”であることで、より辛辣なのです。

(菅澤 邦明)





「いってらっしゃい。」と温かく送り出し、みんなの姿が見えなくなるまで、見守ってくださっていることに感謝しています。今日から明日へと～自分のペースで一步一步進んでいっているのが、子どもたちの姿から伝わってきます。

“はじめのいっぽ”は、各チーム（赤・青・緑）の縄跳び電車に乗って、津門川を元気に泳ぐ年長さんのこいのぼりを見に行くことでした。カラフルにきれいに彩られたこいのぼりに、思わずみんな釘付け!!!「きれい～」「すごい～」の言葉とともに、「おいしそう～」なんて声も聞こえてきました。なるほど!!風に吹かれて、動く姿はまさしく本物の魚みたい～「こんな大きな魚あったらいいなあ～!!!」「どうやって食べよう～」とみんなは、大喜び そんなみんなのかわいくて素敵なつぶやきに心が温かくなりました。

私は年長さんのこいのぼり作りも一緒に行きました。年長さんのおでかけについていったのは、この日はじめてでした。歩くスピードから、距離、なにかもが私の想像以上でとても驚きました。大人の私でさえ疲れるぐらい、とても暑かったこの日。それでも、最後まで一生懸命みんな協力し合い、励ましあい、作り上げました。そして、世界にたったひとつ自分だけのとても素敵なこいのぼりができたのです!!できあがった

こいのぼりを誇らしげに見せてくれた年長さんの背中が、とても大きくたくましく感じました。

そして、みんなも年長さんの素敵なこいのぼりを見ながら、「早く自分のこいのぼりを作りたい!!!」と期待に胸を膨らませたことと思います。来年は、今のさんぽ・らった組が作り～、再来年は、今のぼっぼ組が作り～こんなふうに、たくさんのが、次へ次へと受け継がれていくんだなあ～と嬉しく感じました。私も、またみんなと一緒にこいのぼりを作りに行ける日が今からとても楽しみです!!

ぼっぼさんの“はじめのいっぽ”は、こいのぼり見たあと、ぐるりと津門川を回って橋を渡って幼稚園に帰ってきました。そんな、短い距離でも、みんな大興奮!!みんなと一緒に歩くのが楽しくて楽しくて仕方ない!!ずっと笑顔のみんなにつられて、初めての散歩に緊張していた私もいつの間にか笑顔に～みんなの笑顔ってすごい力!!と改めて感じる事ができました。そんな楽しい時間を過ごしたぼっぼさん。その日から、年長さんたちがおでかけに行く時になると必ずぼっぼさんは「さんぽにいきたい～。」「いつさんぽいくの?つぎ、いく?」と聞いてくる子が……。その様子からも散歩が本当に楽しかったんだと伝わってきました。そして、子どもたちの日々は、

明日へ明日へとつながっていることを改めて感じました。

最後になりましたが、はじめまして。今年からぽっぽ組（青チーム）の担任をさせていただくことになった池ヶ谷 里沙（いけがや りさ）です。4月から始まって、本当にあっという間に1ヶ月が過ぎました。入園式・“はじめのいっぽ”・親子でゆっくりとした素敵な時間を過ごしたお楽しみ会・・・など。本当にたくさんの体験をしました。私が今まで過ごしてきたどの日々よりも、中身の濃い充実した1ヶ月を過ごすことができました。

また、年長さんやさんぽ・らったさんのみんなは、私にとっては共同幼稚園の先輩です。毎日「これ知ってる～??」「教えてあげるよ!!」と言われ、たくさんのことを教わっています。今、私は年長さんと赤縄を目指して“なわとびに夢中”です。いつどんなときも、子どもたちと同じ立場

で寄り添っていく共同幼稚園。だからこそ、子どもたちと同じ思いを体験し、共に自分自身も成長していけるのだと思います。これからも、いろんなことを知り、考え、触れ、感じながら、みんなと共に一步一步歩いていきたいと思います!!

たくさんの方々と出会うことができ、今こうして子どもたちと自然をいっぱいを感じながら毎日を過ごしていけることに心から感謝しています。これからも、よろしく願いいたします。

（池ヶ谷 里沙）

## みかん便り●@

5月に入りゴールデンウィークも終わってしまいました。その間、まったく休めなかった河村高志です。今、6月に開かれる札幌YOSAKOIソーラン祭りの練習で大忙しです…。この祭りは全国から何百チームも集まって競い合うすごくでっかい大会なんですよ。僕の所属している『関西京都今

村組』は今年で8回目の挑戦。僕が入団してからは4回目の挑戦です。

今までの最高はBest 8。今年はグランプリよりさらに高みを目指して猛練習中です。

今、僕の居場所は、学校でも家族でも教会でもなく、この今村組です。ここはいるだけで肉体的にも精神的に



も疲れ果ててしまう場所です。でも、1番『今、生きている』って感じられる場所です。自分の踊りのポジションを守るために、そして更に前で踊れるようになるために必死に練習し、周りの子達と心をひとつにして舞い踊り、前一点だけを見つめ、共に毎日を過ごしています。4月から6月までの2ヶ月は本当に地獄です。祭りまでの残り1ヶ月は更なる地獄が待っています…。でも、全てが終わった後、何が残るのか。何を学び、何を考え、どのように成長したのか。それを楽しみに1日1日を必死にすごしています。とにかく限界まで自分に出来る練習しないと何も成長しません(笑)ここに所属して3年以上がたちました。今まで生きてきた19年間の中で1番成長できたのがこの3年間です。6月以降、周りの人から少しでも成長したなぁと思ってもらえるように、今はしっかり頑張ります

ゴールデンウィーク唯一の休日に西宮の幼馴染たちとご飯を食べに行きました やっぱり幼馴染っていいですね。気イも使わんと何でも喋れます(´ ｀)4時間ぐらい喋ったけど一瞬でした。もっと喋りたかったです。。何を喋ったかは何も覚えてないんですけどね(笑)次に会えるのは夏なんで、いっぱいネタを仕入れとかんといけませんね。ああ、メソドイ...(笑)今年の夏は3年ぶりに自由に過ごせるんで、いっぱい楽しい思い出を作りたいと思っています

それでは次は6月にまた会いましょう(´ ｀)ノ  
読んでもらいありがとうございます。

(河村 高志)

## すずや便り

新緑の季節、皆さまいかがお過ごしでしょうか。公会堂ではカレーパーティーの季節ですね。外に出るには最高の気候ですが、今回はインドアな話題です。

先日、WOWOWで三谷幸喜の特集をやっています「グッドナイト スリプタイト」(舞台)を見ました。舞台の映像はかなり期待していても面

白くないというか見づらいことが多く、それは映像用に創られているわけではないので仕方がないのですが・・・今回は大違いでした！二人芝居ということもあるのですが、かなり楽しめました。

“出演者は、男と女。舞台は、ベッドルーム。限られた俳優と、限られた空間で綴る、三十年間にわたる夫婦”

の物語”(HPより抜粋)。出演は中井貴一・戸田恵子です。

ベッドルームにある2台のベッドの間隔で二人の心の距離がわかります。妻が家を出て行くところから始まります。右上には「10240」の数字。これは結婚してからの日数を表します。次の場面は「242」新婚旅行、「10190」別れる話が出たとき、「3105」...、と30年間を行ったり来たりしながらお話はすすみます。最初は夫が優しいけど頼りなく妻はキツイ性格、これじゃ旦那さんかわいそう、なんて思っていると伏線だらけでパズルのピースを埋めるような展開。けれど、「あるある！」と一人でも盛り上げられます。見終わった後、なるほど~と思いつつ見逃したところがたくさんある気がして「もう一度見なきゃ！」となりました。

それにしても、三谷幸喜ってよくこんな脚本が書けますよね。夫婦の何気ない会話の中にあるすれ違い。こんな反応をするのはうちだけかと思っていたようなセリフがでてくるのにびっくりです。本編後に出演者のトーク映像があり、中井貴一が「脚本どおりにセリフを言うと100%お客さんがウケるところでも、(セリフの)前後が入れ違ってしまっただけでウケない」と話していました。生の舞台が見たかったなあ。ご覧になった方いらっしゃるでしょうか。夏にDVDが

性の友人がお勧めかも。絶対、笑いのツボが違いますから！大勢で上映会をしたら反応がそれぞれになったりして。それも興味深いですね。

ちなみに、我が家は5月で「5479」を迎えます。長女が生まれたのが「660」長男は「1871」。

「1」のころと比べれば確かに変わっていますよね、お互い(笑)。この辺で変化を自覚して「10240」をどのように過ごしているのか、ちょっと楽しみです。

(富家 香麻里)

## 教会学校から

### 《4月の活動報告》

4月5日(日)

特製・ソーセージお好み焼きを食べる

4月12日(日)

イースター・卵さがし

今年のイースターは4月12日でした。恒例の卵探しゲームと特別の賞品付きの「卵クイズ」で楽しみました。

4月19日(日)

プラトンボ作り & 飛ばし大会

4月26日(日)

ビデオ鑑賞会

「つみきのいえ」と「ピングー」のアニメを見ました。最後にみんなで食べたとおきのおやつは「ピングー」もおなかのはちきれそうになるまで食べていた大きなボウル一杯の「ポップコーン」でした。

### 《5月の活動予定》

5月3日(日)

いちご摘み

幼稚園の畑で真っ赤に実ったいちごを摘んで楽しみ、一人当たり3つほど味わっても楽しむことができました。

5月10日(日)

お母さんと一緒に礼拝をする

お母さんへのプレゼントにちょうちょの切り絵のしおりを準備しました。教会学校の礼拝にお母さんと一緒に参加し、礼拝後の活動の時間にはみんなでリンゴジャムのホットケーキを作って食べました。

5月17日(日)

高松公園でドッチビー大会

5月24日(日)

ちょうちょ作り

5月31日(日)

映画鑑賞会

2009年5月 あんなこと こんなこと...



# 大切な贈り物・津門川 80

“ つもわがでさかなみたよ！ ”





## まいのなんでも案内

こんばんは。今月も東京から関ヶ原を越えてお届けします、まいのなんでも案内です。

さて、いきなりですが、私の住んでいるところは燃えるゴミの日が水曜日と土曜日です。貴重な土曜日の朝寝がゴミ出しで中断されるのです。最初に知ったときは大ショックで、不動産屋の方に「あ、あの、まあ前日の夜に出すってことも・・・」と、違法の薦めのようなフォローを受けてしまうほどにしょぼくれたのですが、最近、パジャマのままゴミだけ出して帰って二度寝をする、という技を身に付けまして一安心、の、はずだったのですが・・・。やっちまいました。あ、人に会ったわけではないです。もう今更どんな格好で人に会っても気にしません。そうではなくて、裸眼で出たらですね、アパートの階段をもの見事に踏み外しまして、きれいに捻挫しました。「ぐきっ」て音を聞きました。それでも「あ、捻挫したな・・・でもまだ朝だしどうしようもないな」と冷静な判断を下し、足を引きずりながらゴミを出して家に帰り、湿布もないのでアイスノンをタオルで巻きつけ、昼すぎまで二度寝した自分の睡眠への執念は天晴れだと思います。起きてみたら案の定腫れてましたけど。ていうか今も腫

れてるんですけど。腫れの割に痛みがないのが幸いです。

と、いうわけで、この土日はひたすらのほほんとしたかったので、頭を使わない本を眺めていました。その中の一冊を今日はご紹介。洋書でマイナーなんですけど。手書きのマンガ（ていうほど絵のクオリティは高くない。全く。）で、数年前に京都の洋書屋で見つけて、余りに可愛くて欲しくて何度もその本屋に通った挙句、自分の21歳の誕生日プレゼントに買った、という代物です。

タイトルは、「fluffy」（フラフフィー）。作者のSIMONE LIAて人はイタリア系のイギリス人なのかな。ペンで一本線で描かれたイラストで、フラフフィーていう名前の赤ちゃんうさぎが、人間のマイケルという男性をパパだと言い張って一緒にイギリスに住んでるって話なんですけど。もうフラフフィーがね。可愛いんですよ本当に。あたしのツボをつきまくりな可愛さ、かつ鬱陶しさ！！マイケルがフラフフィーの保育園の先生と恋仲になって、いつの間にかストーカー化してしまった彼女から逃れるためにシチリアの実家に帰る、なんていう本筋（日本ではなかなか書かれない話のような気がする）はどうでもいいんです。大切なのは、フ

ラッフィー。自分がウサギだってなかなか認めないし。拗ねてソファに粗相してどっか行っちゃったりするし。電車の中でも勝手にいなくなっちゃうし。ああもう身近にいたら嫌だけど可愛い。もう、もへーってなります。和訳されて売れてグッズとか作られないかしら。でもこの可愛さはペン画ならではだからマスコット化されても嫌だなあ・・・。

と、書いててもこのシュールな可愛さは伝わらないと思うので、少しだけ会話をご紹介。マイケルの実家にて、昼ご飯（ステーキ）時の会話。

マイケル「ママ！フラッフィーはうさぎだから、ステーキなんか食べないよ！」

マイケル母「フラッフィーはあなたが毎日マクドナルドに行ってるって言ったわよ。ウサギが食事する店だとは思えないけど」

フラッフィー（心の中で）  
「ウサギじゃないもん」

マイケル「違うよ、バーガーじゃなくてシェイクを頼んでるんだよ」

マイケル母「あら。（フラッフィーに）食べられるものだけお食べなさいね」

フラッフィー「うん、おばあちゃま」

みたいな。ああ伝わらない難しい。

更にシュールなのは、幕間に出てくるナレーションが、「ホコリ」と「フケ」をキャラクター化したものだったことですかね。どういうセンスしてるのっていう。でも読んでると愛着がわいてきます。なかなか見る機会のない本だとは思いますが、是非見つけた際にはもへーってなってください。アマゾンで検索したら表紙ぐらい見られるのかな？英語とか読めなくても見てるだけで可愛いんで！あ、でも私の趣味は大抵斜め45度ずれてるらしいんで、これだけ薦めて可愛くなかったらすみません。まあその場合は「まいさん趣味悪い・・・」とか思っていただければ（笑）。それではまた来月。

（高橋 舞）

## つとがわ 編集後記

昨年は、弘前南教会の松村重雄先生の紹介でたくさんの人たちに青森のリンゴを食べていただきました。そのリンゴの、その後の事が気になっていたのに、ずるずる先延ばしになって、遅ればせながら松村先生に連絡をとって見たところ、保管料（冷蔵庫の電気代）などのこともあって、「処分」が始まっているとのことでした。「処分品」と言われる（果肉が軟化したり、褐変したりした）リンゴ600キロを、松村先生の友人、下山公栄さんに箱代、送料負担で届けていただくことになりました。その600キロのリンゴは、カレーパーティに参加した子ども、大人全員に3個ずつ持ち帰ってもらうことになりました。5月6日の兵庫教区常置委員会の出席者25人にも3個ずつ持ち帰ってもらいました。5月10日の被災者生活支援長田センターの集会に参加した30人にも2個ずつ持ち帰ってもらいました。南昭和町自治会の二橋さんには、自治会の皆さんに、ということでも4箱（40キロ）引き取ってもらいました。新生会作業所には、作業所でリンゴジャムを作るということで6箱（60キロ）引き取ってもらいました。

そして、アートガレーヂ、ききるんの会、西宮公同幼稚園母の会、園芸サークル、陶芸サークルの人たちには2箱ずつを、リンゴジャムにしてもらっています。できあがったジャムは砂糖、レモン汁などの実費で作った人たちに持ち帰ってもらい、残りを500gずつパック詰めにし、5月17日、18日の兵庫教区定期総会で販売することになっています。

( K )

G.Wに田舎へ久しぶりに帰ってきました。母方の祖父母にはお正月にも会っていなかったもので、半年ぶりくらいです。会うたびに小さくなっていくおじいちゃん・おばあちゃん、帰る時に「またくるからね」とおじいちゃんの手を握ると、寂しそうに手を強く握り返してくれました。子どもの頃、たくさんつないでもらったその手にずいぶん触れていなかった事に気がつきました。そんなに遠くにいないわけじゃないんだからこれからは時間を作って会いに行こうと思います。

( I )

ゴールデンウィークに家族旅行に行ってきました。姉と私が働きはじめてから、年に1度は家族旅行をするようになった我が家。これまでも、城崎温泉、淡路島に和歌山県、と行ってきましたが、今年は福井県へ行きました。

福井県では、名物の「へしこ」や焼き鯖を食べたり、三方五湖を見に行ったり...おみやげに「塗り箸」も買ってきて、どっぷり福井県に浸った2日間でした。

( Y )

球技が苦手なのですが、ラケットを使うスポーツは大好き GWの丸1日をスポーツdayとして、昼間は公園でバドミントン！夕方からはコートを借りてテニス！5年振りのテニスはまともに打てるのが少し不安もありましたが～とっても楽しくて気持ち良かったです 翌日筋肉痛になったのは言うまでもありませんが（笑）またできたらいいなァ と思っています。

( N )

紫の都忘れが雨上がりの庭で満開になっていた。この時期、都忘れを見ると思いだすのは2004年3月に亡くなった富山の義母のこと。「昔の人はよくうまく言うたもんだわ」、そう言いながらこの花を愛でていた。だから必ず母の写真の前に飾る。なかなかたくましく育った花をあと3つ花束にして朝から近所3軒を回る。「仏さまに供えていただけますか」、こんな庭の切り花をととても喜んでいただくこと数年。数日後、2月にも水仙をお届けしたIさんから島根に遊びに行つたと「大国」というおみやげが。因幡の白うさぎの歌を歌いながら、どら焼きをほうばる。絵本の「しんせつなともだち」ではないが、こんなご近所との呼応はとても楽しい。ところで都忘れの花は昔、都を追われた帝がこの花を眺めてさびしさをまぎらわせたところからきていると言う。母はあまり帰ってこない息子に想いを寄せる意味で「昔の人は～」と言ったのか、花がきれいからどんなさびしさもほんとは慰められるという意味合いだったのか今となってはわからないけれど、その言葉を聞くと心がいたんだものだった。その庭の花を根っこごと西宮へ持たせてくれたから、これで故郷を時々思い出すようにというメッセージだったように思え、4月にこの花が咲くとしみりとなる。その義母との共通の楽しみに「鬼平犯科帳」があった。テレビに文庫本に話は弾んだ。今は火曜日夜8時サンテレビで放送、見れる時は見ながらいつも「耐える」だけだったように思える彼女のことを思い出す。加齢と共に耳が不自由になっていっていた義父は古くなったテレビを買い替えたいと言っても「いらん！」の一言だったから。

( J )